

# みまぐ 私の逸品 男性用サンダル

ワラジは編物ではなく織物であり、ワラジと同様に稲ワラを使ってつくられるゾウリも織物である。これは一見すると日本のゾウリと見られかねないものであるが、イラン南部のバンダル・アッバース近郊の村でつくってもらったサンダルである。全長は二四センチメートルで、素材はナツメヤシの葉や茎である。

一九九九年八月、イランの織機や織物の資料収集と、機織りの映像取材のために、首都のテヘランに到着した翌日、国立博物館で、これとよく似た大きなサンダルが展示されていたのを見たことから、当初の予定の一部を変更して、その製作地であるバンダル・アッバースの近郊の村まで行くことにした。酷暑のなかを長時間にわたり、土煙を巻き上げながら現地まで車を走らせたものの、ナツメヤシのサンダルは、もはや過去の遺物となって安価な合成ゴム製のサンダルに取って代わられていた。そうしたなかで、やっとたずねあてたのが、このサンダルをつくってくれた少数民族バルルーチエの老人であった。

織物のかたちは常識的に四角形だと思い込んでいたわたしは、一九七〇年にはじめての海外調査でインドネシアのティモール島に行き、そこで輪状の織物の存在を知ることになった。しかし、その後世界各地でさまざまな異形の織物を見つけるきっかけになったのは、この楕円状のサンダルとの出会いであった。なんの変哲もないサンダルではあるが、わたしにとっては、かけがえない逸品である。



道具は使わず、手と足だけでサンダルを織る老人

標本番号 H0217240  
 地域 イラン・イスラム共和国  
 受入年 1999年  
 特別展「世界の織機と織物  
 ―織つて―みて―織りのカククリ大発見」にて展示中

民博 民族文化研究部

吉本 忍